

議長（黒沢義久君） 本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたしません。

次、8番成井小太郎の発言を許します。

〔8番 成井小太郎君登壇〕

8番（成井小太郎君） 8番成井小太郎でございます。議長のお許しを得ましたので、通告順に従い、一般質問をいたします。

初めに第1、町会制度の活性化について。

平成の大合併は来年で幕がおりるわけですが、常陸太田市も平成16年12月の合併から4年半が経過し、水道料金、下水道料金等以外は調整が進み、合併後の新しい常陸太田市がようやく本格的に動き出したように感じます。そのような中、新しく町会が設置され、町会長さんを中心に生き生きとした地域運営がなされるものと考えられます。しかし、少子・高齢化、人口の減少等、運営もなかなか大変なものになってきているのではないかと思います。そこで市は、新しい地域コミュニティのあり方をどのように考えているのかお伺いします。また、今年度、各町会へ上限10万円の交付金の意味、そして、今後どのように発展させていくのか、あわせてお伺いいたします。

2番、女性の管理職登用について。

男女雇用機会均等法の施行から二十数年、女性管理職が次々と誕生しております。ところが常陸太田市においては、残念ながら女性管理職は一人もいません。女性としての細やかな観点を市の行政運営に取り入れていくことは、これからの常陸太田市の発展になくてはならないものと思います。女性の人材育成はどのようになっているのか、一般職の女性職員は何人いるのか、それは何%になるのかお伺いします。また、表題の質問とはちょっと異なってしまいましたが、市が招集する審議会、委員会等の女性の割合もあわせてお伺いいたします。

3、合併後の管理職員についてです。

合併後、10年間は合併特例債が使えることになっています。つまり、国は10年が合併後のいろいろなものが整うという期間の目安と考えていると思います。そして、常陸太田市の本格的なまちづくりは、合併後の調整が一段落したこれからです。

大久保市長は2期目に入るわけですが、1期目はこまめに地域を回り、意見に耳を傾け、市政発展のためにご尽力をされたことは多くの市民が認めるところで、その結果が無投票での当選となりました。2期目の大久保市長のますますのご活躍を期待いたします。

さて、市長におかれましては、前段で申し上げたとおりでございますが、管理職においては、さらに詳細に市内のことを知る必要があります。それには現場に足を運び、現実を把握し、対策を考えることだと思えます。市長以外の副市長、部長等管理職が支所を回ったり、その他の施設を見て回ることが非常に少ないのではないかと感じています。これから管理職となる職員にもぜひ支所の経験をして、できるだけ地域を理解し、交流を深め、常陸太田市の一体化を進めるよう努めるべきかと考えますが、お考えをお聞きます。また、職員同士の交流はどのようになされているのかお伺いいたします。

4, 国道349号東バイパス4車線化の現状と今後の見通しについて。

水戸市から那珂市まで完全4車線化されている国道349号ですが、那珂市から常陸太田市までの4車線化が一向に進まないままです。常陸太田東バイパスは、平成4年12月に4車線のうち片側2車線が完成。そして平成10年3月に新幸久橋が完成し、バイパスの機能はでき上がりました。これからの新しい発展するまちづくりのためには、水戸から常陸太田市までの道路の4車線化は必須と考えます。現在の交通量では渋滞などの問題等はないという考え方もあるでしょうが、10年先、20年先の地域発展への影響を考えますと、1日でも早い完成を願うものです。実際、常陸太田市に隣接する常陸大宮市では、118号バイパスが4車線化されたこともあり、多くの店舗が進出しています。そして、金砂郷地区の住民の中にも常陸太田の店舗よりも常陸大宮の店舗を利用する者が増えつつあるように見受けられます。そのような状況を考えますと、水戸市から常陸太田市までを4車線化することで、水戸からの連続した市街地が形づくられ、商業圏の拡大の中で地域が発展するのではないかと考えます。以上、ご意見をお伺いいたします。

5番、水郡線利用の観光客のための交通手段について。

水郡線を利用し、常陸太田市を観光しようとする、駅からの交通手段は徒歩もしくはタクシーです。公共交通手段としてバスはありますが、利用できるものではありません。これから新しい駅舎が完成し、観光案内所ができる予定ですが、そこからの観光客の交通手段をどのように考えているのかお伺いします。

以上、1回目の質問といたします。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。市民生活部長。

〔市民生活部長 五十嵐修君登壇〕

市民生活部長（五十嵐修君） 市民生活部関係の新しいコミュニティのあり方をどのように考えているのかというご質問にお答えをいたします。

現在、市内各地域において市民の活動が活発化してきておりますが、その実態を見ますと、町会長さん、あるいはその地域をリードする方々がさまざまな分野で活動され、住みよい地域づくりに積極的に取り組んでいただいているところであり、町会長さんには重責を担っていただいているところでございます。

地域のコミュニティは、元来地域の住民が楽しく元気で暮らしやすい地域活動をする単位であると考えております。今後ますます過疎化や高齢化が進む中で、これまでどおりの町会単位の活動だけでは、さまざまな行事や活動を進める上で障害が生じてまいることとなります。そのため、今後のコミュニティのあり方といたしまして、総務省の研究会でも考え方を示しているところでございますけれども、町会を超えたもう少し大きい、例えば小学校単位のコミュニティを形成し、町会を初め、地区社会福祉協議会や地区体育協会、老人会、PTA、子ども会、女性の会などの組織が連携できるような単位でコミュニティを形成する必要があります。そのため、今年度はその体制づくりを目指して、仮称ではありますが「市民協働のまちづくりを考える会」を立ち上げ、地域の実情を踏まえ、地域の皆様のご意見等をいただきながら、今後の地域コミュニティのあり方や協働のまちづくりについて活動をしやすくする仕組みづくりを市民の皆さんとともに検討を

してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（黒沢義久君） 総務部長。

〔総務部長 川又善行君登壇〕

総務部長（川又善行君） 総務部関連のご質問にお答え申し上げます。

まず、町会制度の活性化についてでございます。各町会への上限10万円の交付金につきましては、川又議員さんのご質問でもお答えしましたとおり、地域コミュニティの核でございます町会の地域活性化活動への新たな支援策として創設したものでございます。具体的には生活環境をよくする活動、地域を元気にする活動、地域福祉の活動、安心、安全な地域づくり活動、世代間、地域間交流活動、地域コミュニティ推進活動など、地域の振興活動や協働のまちづくり事業に対する活動費としまして、1町会10万円を限度に交付するものでございます。この交付金制度につきましては、地域コミュニティの新たな仕組みができるまでの間は継続してまいりたいと考えております。

次に、女性の管理職登用についてでございます。女性の職員数につきましては、平成21年4月1日現在、220名でございまして、全職員数690名に対する割合は31.88%となっております。

女性職員の管理職登用につきましては、単に役職における女性の割合を高めることに着目するだけではなく、管理職として必要となる指導・育成能力、危機管理能力、行政経営能力、折衝・調整力、判断力などの能力を各職場におけるOJTや専門研修を通して、育成、向上することに努め、職員それぞれの能力と実績を公正に評価しながら適材適所の人事配置に努めております。また、本年4月に今後の人材育成の指針となる新たな人材育成基本方針を策定しまして、それぞれの職務、職階に必要な能力及び期待される役割を明確化した上で人材の育成に努めているところでございます。さらに、職員で構成する庁内検討会または委員会などの委員任命に当たっては、知識、資質の向上のため、可能な限り女性職員の任用に努めているところでもございます。

なお、市が招集する審議会、委員会等の女性委員の割合でございますけれども、平成21年4月現在で16の審議会においては、総委員数408名に対し女性委員数56名で、その割合は13.7%、6つの委員会においては、総委員数41名に対し女性委員数5名でございまして、その割合は12.2%となっております。

次に、合併後の管理職職員についてでございます。副市長、管理職を初め、全職員について常に現場に足を運び、現状を把握することに努めております。今後においてもさらにこの現場主義を徹底し、現場に足を運び、現状の把握、点検、対応などに努めてまいり所存でございます。

次に、本庁と支所間の人事交流につきましては、各地域間の連携を強化するとともに、職員相互の理解と融和を図るため、人事異動の基本的方針として実施しております。平成21年4月1日現在の支所における職員配置状況についてでございますが、3支所合計で旧町村の所属職員数41名、配置割合52.56%に対しまして、その他の地区からの職員数37名、割合は47.44%でございます。ほぼ同数の配置状況となっております。今後におきましても適材適所による人事

配置を行い、各地域間の連携強化並びに職員相互の理解と融和を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（黒沢義久君） 建設部長。

〔建設部長 富田広美君登壇〕

建設部長（富田広美君） 国道349号常陸太田東バイパス片側2車線化の現状と今後の見通しについてお答えいたします。

国道349号常陸太田東バイパスにつきましては、平成10年に下河合町から瑞龍町までの約6.2キロメートル区間が暫定2車線で全線開通いたしました。平成17年に県で行いました交通量調査によりますと、木崎二町におきましては、平日12時間交通量が1万3,691台でございます。本バイパスは市街地東部を南北に縦貫する重要な広域幹線道路であり交通量も多いことから、国、県に対しまして、国道349号水戸・里美間整備促進期成同盟会などの整備促進団体による要望などあらゆる機会を利用し、4車線化の要望を行っているところでございます。

また、本バイパスの一部区間、国道293号三才町交差点から瑞龍町の旧349号交差点までの西側沿道地区は、今年3月に見直し策定しました都市計画マスタープランに、大型商業施設や工場、研究施設などの立地誘導を図り、都市サービスの向上を図る地区と位置づけしており、早期4車線化の実現は本市のまちづくりに欠かせないことから、今後も引き続き要望を行ってまいります。

議長（黒沢義久君） 産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

産業部長（赤須一夫君） 水郡線利用の観光客のための交通手段についてのご質問にお答えいたします。

常陸太田駅を利用する観光客の入り込み人数や旅行者の市内観光地への交通手段などの実態調査を行いながら、どのような形態が効果的であるかを今後研究してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長（黒沢義久君） 次、8番成井小太郎君。

〔8番 成井小太郎君登壇〕

8番（成井小太郎君） 2回目は要望だけということにいたします。

町会長さんは町民から選ばれ、町会内の市への要望への取りまとめ、また、人材の推薦等、住民と行政の間にあり、重要な役割を担っているわけです。そのような中、定期刊行物の配布についての取り扱いなんです、旧太田市と旧1町2村の間での相違があるようですが、こういったものもできるだけ統一し、そして制度の一本化は常陸太田市が真に1つになるために大切なことではないかというふうに考えております。

また、2番目の女性の管理職の登用についてでございますが、約3割ちょっと女性の方が職員としていらっしやると。単純に雇用機会均等法からいうと、割合分いてもいいんじゃないかとい

うふうに考えるわけですが、それはやはり女性ということではなかなか同じようにはいかないのかなというふうには感じました。そこで、県から女性管理職を招聘してはどうかと。特に、女性の管理職の考え方が反映される部署、それにより女性職員の刺激になれば、それはより庁舎内が活性化されるのではないかというふうに考えるからです。ご検討いただきたいということです。

3番目の合併後の管理職の職員についての答弁ですが、答弁どおりわかりました。ただ、これから常陸太田市が地域力を発揮するには、職員の一致協力の体制というのは不可欠だというふうに考えます。一丸となって地域活性のために取り組んでいただきたいというふうに期待しております。

4番目の国道の件なんですけど、平成4年12月に片側2車線が完成ということですから、16年間そのままになっていると。花を植えたり有効利用というのはしているみたいですが、そういう使い方もあるのかなというふうに思いますけど、これはやはり本来の4車線化ということを進めていく必要がこの地域にはあるというふうに思いますので、よろしく推進のほうお願いいたします。

また、5番目の水郡線利用のための交通手段ということで答弁がございましたが、これから考えるんですけど、私の考えていることをちょっと述べさせていただきたいと思うんですが、市民バスの利用を考えられないかということなんです。現在、週2回、1日2回から3往復運航されているかと思いますが、このバスを休日も運行して、そして回数を増やすことはできないでしょうかということなんです。竜神大吊橋までタクシーで片道6,000円以上、往復すると1万2,000円以上かかるわけなんですけど、この辺のことの解決がなされれば、観光客増の1つなるというふうに考えるわけなんです。バスが走るということは人が動くということになると思います。これから交流人口、観光客の増を図り、地域の活性化を図るには、費用対効果プラス何かを考えていく必要があると思います。ただ、ニーズを満たせばよいというものではないというふうに考えるものであります。

以上、考えを述べさせていただきました、質問を終わりといたします。ありがとうございました。